

実用

広語小辞典

井浦芳信編

实用広語小辞典

1979年 初版発行

内部交流

A 1/5

实用日语小词典

(日6-2/A5)

A 00130

実用

広語小辞典

井浦芳信編



はしがき

人間はことばや文字を自由自在にあやつりながら生活と心情を向上させ豊かにしてきました。今日の日本も千数百年にわたることばや文字——日本語の長い歴史に支えられているのです。日本語を正しく美しく使うことによつて、わたくしたちの毎日は豊かでけじめのある知的で楽しいものになり、それはやがて未来の日本へと連なつていくのです。

わたくしたちは、話し、聞き、読み、書くにつけ、あまり身近なのでついことばや文字をあいまいなままや知らないままにしておくことが多いのですが、ちよつと手間をかけて、何かにつけすぐ辞書を引いて確かめたり覚えたりすればすべては一段と知的に充実し心豊かなものになるでしょう。

この辞典は、右のように考えたすえ、使う人の身になつて学習・実務・教養・日常生活にほんとうに役立ち実際に使いやすいものをと案を練り新しく編集したもので、この趣旨は活字や記号の選び方にまで徹底しています。内容は、現代日本のわたくしたちに必要な日本語のすべてです。

主要な古語から最新の現代語までを精選し、正確明快な語釈・解説を加え、外来語・時事語・新語・専門語等を含めました。

編集にあたり多方面から御協力を仰ぎました。主要部については造詣深い金子正義氏・中里重吉氏・富士昭雄氏ほか数氏に担当して頂きました。この辞典が、できるだけ多くの人々に活用され、飾りものでない真の座右の書となることを、心から願つております。

凡例

◇ 広範で豊富な収録語

この辞典には、現代国語の根幹をなす当用漢字をはじめとして、ひろく学習・実務・教養に役立つ語彙を収めた。その範囲は、古語から現代語におよび、また外来語・新語・時事語・専門語もとりあげた。特に見出し漢字には、当用漢字のほかに、世間では現在でもよく使われる主要な漢字も加えて、広く日常生活のなかで役立つよう配慮した。

◇ 見出しとその並べ方

(1) 見出しは、原則として日本語は平かなを、外来語は片かなを用い、いずれも太字で、現代かなづかいで示した。

(2) 見出しの並べ方は五十音順とし、さらに次の方

式に従った。

△イ▽清音・濁音・半濁音の順

こはん【湖畔】 きんぶん【均分】

こぼん【小判】 きんぶん【金粉】

ごばん【碁盤】 ぎんぶん【銀粉】

△ロ▽促音・拗音^がは、直音の前

あつかん【悪漢】 かしゃ【貨車】

あつかん【熱燭】 かしゃ【貸家】

△ハ▽日本語と外来語では、日本語が前

さんば【産婆】

サンバ

◇ 見出し漢字

(1) 熟語を構成する当用漢字(一八五〇字)を『』に包んで大活字で示した。このうち、新旧両字体があるものは、旧字体を「」の中に小活字で示した。

えん【遠】「遠」

(2) 当用漢字表にない漢字も、教科書・新聞・雑誌などによく現われるものは、つとめてとりあげた。この場合、その漢字を「**一**」の中に小活字で示し、右肩に×の記号を付けて、当用漢字と区別した。

そう「**×爽**」

◇見出しの書き表わし方

(1) 見出しの書き表わし方を「**一**」の中に示した。

表記は当用漢字表・同音訓表・同字体表・現代かなづかい・新送りかなを用い、次の記号を右肩に付けた。

× 当用漢字以外の漢字(人名用漢字をふくむ)

△ 当用漢字表にあるが、同音訓表にその音または訓が認められていない読み方

無印 当用漢字表にある字

きしよう「**希少**・**×稀少**」

かぐわしい「**△香しい**・**△芳しい**・**×馨しい**」

ただし、地名・人名など固有名詞は、記号を省略

した。

かい「**△甲×斐**」①効果、②きまめ。

かい「**甲斐**」旧地名、いまの山梨県。

(2) 外来語と他の語との複合語の場合は、外来語の部分を一で示した。

アートし「**一紙**」

◇送りがな

送りがなは、内閣告示(昭和四十八年六月八日)の「送りがなのつけ方」を基準とし、その表記にあたっては原則として「本則」を適用した。なお「許容」が適用される語については()で示した。()でくくられた部分は送っても送らなくてもよい場合を示す。

◇音訓

見出し漢字には、原則として音読みの項に、音を片かなで、訓を平かなで、いずれも現代かなづかい

で示した。音訓のうち、太字は「当用漢字音訓表」に認められているものである。認められていないものには細字を用いた。

かん【乾】

カン・ケン・かわく・かわかず・ほす・いぬい

あん【~~閻~~】

アン・ヤミ・くらしい

◇語釈と解説

(1) できるだけ簡明な語釈・解説を加えた。原則として当用漢字・現代かなづかいを用い、一語にいくつもの意味がある場合には、①②③…で区別して、それぞれの意味を明らかにした。

あいけん【愛犬】

①かわいがっている犬。②犬をかわいがること。

(2) 見出し漢字の語釈においては、その漢字の基本的な意味を説明する立場から、当用漢字で表記できる場合であっても、特にな書きで表わしたものである。

か【歌】^{①うたう。}_{②うた。}

(3) 場合によって、当用漢字以外の漢字も用いたが、むずかしいと思われるものや、特別の読み方をするものには、振りがなを付けた。

(4) 古語には、解説の初めに④の記号を付けた。

いそ【[△]五[△]十】_{⑤五十}

(5) 必要と思われるものは「」の中に用例をかかげた。この場合、見出し語にあたる部分は―によって省略した。

おうほ【応募】_{……「―者」}

用例のうち、理解しにくいと考えられるものには、用例に続けてその意味を説明した。

かんむり【冠】_{……「―をまける」ふきげんになる。}

(6) 参照すべきものは、↓の記号を付けて、その項目を示した。

うめる【埋める】_{①―うすめる。②湯に水}

(7) 対義語は↑を、同義語には∥の記号を付けて、

それぞれ示した。

おもい【重い】……………軽い

あいがん【哀願】……………哀訴

(8) 注意すべきものや、参考にすべきものには、解説のあとに*を付けて、補足的に説明を加えた。

いか【以下】……………「五年以下」といえば「五年」もよくむ。

◇常用漢字表案の漢字

昭和五十四年三月第十三期国語審議会は、現行の当用漢字表に代わるものとして、常用漢字表案をまとめ、文部大臣に中間答申した。次期審議会による正式答申を経た後、一般に公布され、実務に移されることになる。常用漢字表案は、一般の社会生活で文章を書き表す場合の漢字使用の「目安」を示すものであるとして、当用漢字表の漢字千八百五十字に九十五字を加え、当用漢字表にある漢字十九字を削り、計千九百二十六の字種を掲げている。この辞典は、常用漢字表案で追加または削除された字種・音

訓に次の表示をした(略語・記号表参照)。なお、字體は、常用漢字表案の示す字體によつた。

略語・記号表

【漢字記号】

× 当用漢字表にない字

△ 当用漢字表にあるが、同音訓表にその音または訓が認められていない読み方

○ 常用漢字表案で追加された字種・音訓

● 常用漢字表案で削除された字種・音訓

▲ 常用漢字表案で認められていない音訓

↓ ……を見よ ↑ 対義語 || 同義語

| 見出しの外來語の重複部分と、用例中の見出しの省略

* 参考・注 ㊦ 古語

あ

あ【亜】ア・つくぐ。①「熱帯植物・一流」②「亜細亜」の略。③「亜爾然丁」の略。

あ【阿】ア・くま・おもくま。①おもれる。「つらう」「一世」②「阿」の略。③「阿」の略。④「阿波」の略。⑤「阿波」の略。⑥「阿波」の略。

あ【蛙】ア・かえる。かえる。井戸の底のかえる。世間知らず。

ああ【嗚呼・噫】①おどろき。②呼びかけの語。③返事の語。

アークとう【燈・灯】向かい合わせの二本の炭素の棒に電流を通じて自然の光を出させる電燈。弧燈。

アーケード【門廊形の屋根の】に屋根を設けた商店街。歩道。

アース【地球。大地。】①電流を電気に放出するために電

アース【地球。大地。】①電流を電気に放出するために電

アーチ【上方が半円形の建造物。せりもち。】②祝賀などにヒノキ・スキの葉などで飾った門。縁門。

アーチ・ダム【貯水湖の前方に高水圧にたえるように作ったダム。】

アート【芸術。】②美術。③技術。④「アート紙」の略。

アートし【紙】写真版・原印刷に用いる上質の色紙などのことで光沢があり、不透明。アトペーパー。

アーベント【△「夕べ」の意▽夕方から開かれる音楽会や講演会などの催し。】

アーメン【△「しかあれかし」のト歌で祈りのあとで唱えることば。】

アーモンド【くだもの一種。種は洋菓子などに使われる。】

アール【土地の面積単位。百平方尺。約三十坪。】記号。

アールエイチいんし【R h 因子】多くの人が持つ赤血球の中にある因子で、これをもたない人に輸血すると障害をおこす。

あい【相】①互いに。「対する」。②「いっしょに」。「一乗り」。

り③動詞にそえて語調を強めるのに使う。「愛わらず」。

あい【藍】①たて科の一年葉からとる染料。②濃い青色。あい色。

あい【愛】アイ・いとしむ。めしむ。まな。①かわいがる。「慈」。②「まな」あう。「慈」。③好む。「一説」。④大事にする。「一説」。⑤おしむ。「一説」。

あい【哀】アイ・あわれ。あいなしむ。①悲しむ。「悲」。②かわいそうに思う。「一説」。③泣きつくようにして嘆む。「一説」。

あい【陰】アイ・せま。苦し。疾。一。路。

アイ・アール・ビー・エム【IRBM】射程千二百二十道程。

あいいく【愛育】わいたわりか育てること。

あいいん【合印】帳簿・書類に合わせたしるしにおす、はんこ。

アイ・エル・オー【ILO】国際労働機構。国際連合の専門機関の一つ。「一乗り」労働者の

結社の自由と団結権の擁護に関する国際条約。

あいえん【合縁】人と人との「一奇縁」。

アイ・オー・シー【IOC】国際オリンピック委員会。一八九四年創設。

あいか【哀歌】哀愁のある歌。悲歌。エレジ。

あいかぎ【合鍵】錠に合った別のスペア鍵。

あいかた【合方】①能のはや伎で、俳優のせりふに合わせひく三味線。②遊里で、客の相手の遊女。③相手。

あいかわらず【相変(わ)らず】これまでと変わらなく。

あいがん【哀願】あわれみをこむこと。哀訴。

あいがん【愛・玩】かわいが。てあそぶこと。

あいきどろ【合気道】徒手

ま、または棒などを用いて行う護身術。古流柔道の大家流合気柔術の改称。

アイ・キュー【IQ】知能。知能指数。知能程度を数値であらわしたも。

あいきょう【愛敬・愛嬌】①こやかでかわいらし。②「こやか」でかわいらしく。③「こやか」でかわいらしく。④「こやか」でかわいらしく。

あいきん【愛吟】詩歌を好ん

あいきん【愛犬】①かわいが。②犬をかわいがること。「一乗り」。

あいき【愛願】めんどろを見。て、ひきたて。ること。ひいき。

あいき【愛護】かわいがり。大事にする。こと。

あいきょう【愛好】深くこのむ。こと。

あいきく【愛国】国を愛する。こと。

あいきことば【合言葉】仲間。であらかじめ決めてある合図の言葉。

あいきつ【挨拶】①人に。ときにとりかわす動作・言葉。②会合のときなどにあらたま





て述べる言葉。③うけこたえ。
④返礼。

あいし【哀史】①悲しい歴史。②あわれな物語。

あいじ【愛児】親がかわいがも。いと子。

アイ・シー・ビー・エム【I C B M】射撃数千のロケット式大陸間弾道弾。

アイシヤドー 目のまわりに色むなどの化粧品。

あいしゆう【哀愁】もの悲しさ。②憂鬱。

あいしゆう【愛執】おぼれ、はなれられないこと。

あいしゆう【相性・合性】①陰陽五行説による男女のよいとりの合わせ。②互いの性質がよく合うこと。

あいしゆう【哀傷】悲しみ。②哀悼。

あいしゆう【愛称】親しんで呼ぶ名まえ。

あいじよう【愛情】①人や物事に對するあたたかな心持。②情愛。③異性を恋したる感情。

あいじるし【合印】①敵を区別するためのしるし。②数値のとき、へらや花代布の合わせめにつけるしるし。

あいじん【愛人】①愛している人。②情人。

あいず【合図】めた物事を知らせること。またその知らせ。

アイス・クリーム 牛乳・卵・砂糖・香料などを混合し、冷凍してつくる氷菓子。

アイス・ボックス 冷蔵庫。

アイス・ホッケ 氷上でおこなうホッケ。

アイス・リンク 人工的に氷をつけたスケート場。

あいする【愛する】①いかりいつくしむ。②恋したる。③大切にすること。

あいせき【愛惜】おしんで大切にするこ。

あいせき【哀惜】人の死をおしむこと。②哀悼。

あいぜんみようおう【愛染明王】怒りの相を示す神。

あいそ【哀訴】あわれなようすで訴えること。

と。②哀願。

あいそ【愛想】人あたいのよいこと。②もてなし。「なんのおもなくてすみません」③したしみ。「うが尽きる」④料理屋の勘定。「おー」

あいぞう【愛憎】愛することと。にくむこと。

あいぞう【愛蔵】大切にしまと。大切に持っていること。

アイソトープ 化学的性質が異なる元素。イソトープ。同位元素。

あいだ【間】①物と物とはさまのへだたり。②時間のへだたり。長さ。③二、三日の間に仕上げる。④人と人との関係。⑤「一」から「二」の間。「意見の—をとる」

あいたしゆぎ【愛他主義】他人の福利を第一として行動する主義。②利他主義。

アイ・ダブリュー・ダブリュー【I W W】世界産業労働者組合。

あいちやく【愛着】愛情にひかれはなれにくいこと。愛執。

あいちよう【哀調】なしが

音色・調子。

あいちよう【愛鳥】①鳥をがること。「一週間」②かわいがっている鳥。

あいちようすい【愛知用水】名古屋東部地域開発のため、木曾川から知多半島まで引いた用水。

あいづち【相槌】①殿治。がわる槌を打ちあうこと。②相手の話に調子を合わせて受け答えること。「—を打つ」

アイデア ①理想。②着想。

あいでし【相弟子】同じ師で学ぶ門人。同門。

あいてどる【相手取る】交渉や争いの相手とする。

あいたう【哀悼】人の死を悲しむこと。②哀惜。

あいどく【愛読】好んで読むこと。

あいにく【△生憎】時機がわるに。おりあしく。

アイヌ 北海道の一部に住み、かや千島にも住んでいた一民族。アイヌとはアイヌ語で「人」の意。

あいのこ【合の子・△間の子】①混血児。②異なる二種のものの間にできたもの。③二種のもののどちらともつかないもの。

子】①混血児。②異なる二種のものの間にできたもの。③二種のもののどちらともつかないもの。

あいのり【相乗り】二人以上、車などにいっしょに乗ること。

あいは【愛馬】①馬をかわいがわっている馬。

アイ・バンク 死後、角換を移植とをあらかじめ契約しておく機関。またその制度。目の銀行。

アイ・ビー・エム【I B M】記録・記録・計算・照合・統計などの事務を自動的にこなす電子計算機。

あいびき【△逢引・△婿・△曳】愛しあう男女が人目をしのんでひそかにあうこと。ランデブー。②密会。

あいぶ【愛撫】深くかわいなでさすってかわいがること。

あいべつ【哀別】悲しい別れ。別れを愛しむこと。

あいぼう【相棒】①かごをかける相手。②仕事仲間。

あいま【合間】何かをする時間や仕事のあいだ。

あいまい【△曖昧】①はつきりし



ないこと。あやふや。②いかがわしいこと。「宿」

あいまつて【相×俟つて】ともに助けあって。「両一」

あいまたがい【相身互い】たがいに同情し、助けあうこと。

アイモ ①ニューズ映画用の三十五、撮影機の商品名。②同上型カメラの通称。

あいよう【愛用】①好んで用②大切に用いること。いつも使っていること。

あいよく【愛欲・愛×慾】①欲望に執着すること。②性愛の欲求。

あいらく【哀楽】悲しみと樂けること。「一の情」

あいれん【哀×憐】あわれみけること。「一の情」

あいろ【×隘路】①せまくけわ事をすすめていくうえの障害。②加熱して衣服などのしる器具。

アイロン わをのぼし、形を整える器具。

あう【合う】①一致する。②形が合う。③損益がつりあう。④互いに…する。「話し」

あう【会う・遭う・逢う】①人と願を合わせる。面会する。

「人」に②のある物事に出あり。「災難に」

アウトサイダー ものごとをする仲間以外の人。局外者。

アウトライン ①外側の線。②あえぐ【×喘ぐ】と苦しもうに息をする。③ひどく苦しむ。「不況に」

あえて【敢えて】①しめて。②別に。すこしも。

あえない【敢え無い】①はかない。②あつけない。「一般論をとげる」

あえる【和える】野菜や魚みそ・ごま・酢などでまぜあわせる。

あえん【亜鉛】銀灰色の金属。元素。電池の陰極やマッキに用いる。元素記号 Zn。

あえんか【亜鉛華】白い粉状の酸。化亜鉛。医薬用。

あおあらし【青嵐】初夏のころに吹く強い風。

あおい【葵】①たちあおい。ふゆあおいなどの総称。②徳川

將軍家の紋所。

あおいきときき【青息吐息】非常に困難な状態に陥っているようす。

あおいまつり【葵祭】五月十五日の京都賀茂神社のまつり。京都三大祭の一つ。

あおいろしんこく【青色申告】青色の用紙であらかじめ申告すること。この申告によって税法上の特典が認められる。

あおうなばら【青海原】青青とした広い海。大海原。

あおうめ【青梅】熟していない。青梅とした梅の実。

あおかび【青×黴】かびの一種。黒みがかった緑色で、もち・パンその他の食品に生ずる。

あおぐ【仰ぐ】②上を向く。たつとぶ。③請う。「救済を」④飲む。「毒を」

あおげ【青毛】青みをおびて見える黒い毛。なみの馬。

あおざかな【青魚】せなかな魚のこと。さば・いわし・さんまなど。

あおざめる【青ざめる】血の気がなくなつて顔色が青白くなる。

あおじやしん【青写真】①青地に白色で設計図などを複写したもの。②計画案。

あおすじ【青筋】①青い色の膚の表面に浮き出てみえる筋脈。②「一を立てる」かんしゃくをおこす。

あおた【青田】①青青とした。まだ突つていない田。②稲がへびの一種。中型で茶色をしてゐる。無毒。

あおだいしょう【青大将】

あおたがい【青田買い】①稲の成熟前に収穫量を見越してその田の米を買いこくこと。②卒業前の学生に求人側が早くから採用をとり決め、人手を確保すること。

あおてんじょう【青天井】空を天井にたとえていう言葉。青空。

あおにさい【青二才】未熟な若人を軽べつしていう言葉。

あおば【青葉】①青葉としげ。②木の葉。

あおびょうたん【青×風×簾】①未熟の青いひょうたん。②やせて顔色の悪い人をあざけつていう言葉。

あおみ【青み】①青い色。②食品にそえる緑色の野菜。

あおむく【仰向く】上を向うつむく。

あおやぎ【青△柳】①青青とたやなぎ。②ほか貝のむきみ。すしなどに使う。

あおり【煽り】①あおること。②余波。

あおる【×呷る】①一息にぐつと飲む。②勢いよくつづけて飲む。「酒を」

あか【赤】①七色の一つ。三原色の略。②共産主義者。③ある言葉の上につけて「まったくの」という意味を表わす。「赤い」はだか「他人」の血のつながっていない、まったく関係のない人。

あか【×垢】①皮膚にたまるとよごれがたまつてうつわの内側についたもの。水あか。

あかいとり【赤い鳥】

あかいはね【赤い羽根】



共同募金に寄付した人に渡す赤色の羽根。またその募金。

あかえぼし【赤・烏帽子】
①朱赤色のえはし。②異様な物を好むこと。「亭主の好む」

あかがみ【赤紙】①赤い色の召喚令状。②差押えのしるしの紙。

あがき【△足×掻き】
①馬な足で地面をかくこと。②もがくこと。「わる」いたずらに無益の努力をすること。「一がとれない」もがいてもどうにもならない。

あかゲット【赤一】①赤い布。②おのほりさん。③なれない洋行者。

あかこ【赤子】赤んぼう。②嬰兒。

あかこうのう【赤行囊】
現金・書留などの貴重郵便物を入れて運ぶ赤色の袋。＊赤郵袋の旧称。

あかし【△証】証明。確証。「身の潔白を証明する」

あかし【△燈・△灯】
①ともしび。②燈明。

あかじ【赤字】
①収入より支出の額が出ること。欠損。「一財致」黒字。＊赤字で記載する。②校正で赤インキなどを用いて訂正した文字。

アカシア①まめ科の常緑高木。が咲く。街路樹に用いられる。材は建築・家具用。②はりえんじゅ(ニセアカシア)の通称。

あかしお【赤潮】
海中の微細な赤茶色にみえる海水。魚・貝に害をあたえる。

あかじこうさい【赤字公債】
歳入不足を補うために国が發行する公債。

あかしんぶん【赤新聞】
社会や企業・個人などの裏面や私生活を興味本位に書きたてる低級な新聞。

あかす【明かす】
①あきらかに夜をすこして朝をむかえる。②夜をすこして朝をむかえる。

あかす【飽かす】
①あきるほどにさせる。②ぜいたくに使う。「金に―して遊遊する」

あかだし【赤だし】
①赤み。②魚の切り身を入れた大飯。③うのみそ汁。

あかチン【赤一】
マリーキュロの俗称。赤色の消毒薬。

あかつき【暁】
①あけがた。②ことが実現したとき。「合格の―には」

あかつち【赤土】
①火山灰系。②褐色の土。

の土。②黒赤色の絵の具。

アカデミー①プラトン学派。②芸術・芸術の權威のある学会。③学士院。④大文学研究所などの総称。

アカデミーしょう【一賞】
アメリカの映画科学芸術協会が、前年の世界の映画から選んで贈る映画・映画人賞。

あかとんぼ【赤・蜻蛉】
初秋にとぶ小形のとんぼ。あかねとんぼ。

あがなう【△購う】
①買い求めぬかれるために金品を提供する。②埋め合わせをする。

あかぬけ【垢抜け】
都会ふ練されていること。粋なこと。

あかはた【赤旗】
①赤い色の信号の旗。②平家、の旗。③共産党・労働組合などの旗。

あかはだか【赤裸】
だか。まるはすっぱだか。

あかふだ【赤札】
①見切品に貼る赤い色の札。②売約済みを示す赤い札。

あかぼう【赤帽】
①赤帽子。②駅で旅客の荷物を持ち運ぶことを職業とする人。

あかみ【赤身】
①魚肉などの肉の赤い部分。②白身。③材木の中心より赤茶けた部分。

あがめる【△崇める】
びうやまう。崇拝する。

あかもん【赤門】
①朱ぬりの門。②旧前から、東京大学の異称。

あかり【明(かり)り】
①光。②ともしび。③希望。光明。④潔白を証明する。あかし。

あがりはな【上がり△端】
土間や庭から座敷に上がる所。

あがりばな【上がり花】
新しく入れたばかりの花。

あがりゆ【上がり湯】
湯船の湯とは別のきれいな湯。おか湯。

あがる【上がる・揚がる】
①騰がる。②地位・程度などがよくなる。「成績が―」③終わりになる。「仕事―」④のぼせる。「血が頭に―」⑤「食べ―飲む・吸う」の尊敬した言い方。

「どうぞおーりくください」⑥「行くたすねる」の入りくだった言い方。「おとどけに―ります」

⑦「高い所に行く」「たこが―」⑧陸上に出る。「プールから―」⑨いきおいがよくなる。「気力が―」⑩油の熱がとおって食べられるようになる。「てんぷらが―」⑪「値段が高くなる」「物価が―」⑫「犯人が―」⑬収入・利益・効果が増えらる。「成果が―」

あかるい【明るい】
①光が強い。②色があざやかである。③性質がほがらかである。④物事をよく知っている。⑤公明正大で、うしろぐらいところがない。

あかるみ【明るみ】
①明るく照らされた場所。②事件が―に出る。「今までわからなかったことが表面に出る」

あかんたい【亜寒帯】
温帯と熱帯の間にあり、寒帯に近い。北緯五〇度から六〇度の付近。

あき【秋】
九月から十一月までの七ヶ月から九月まで。＊秋のはじめは初秋。秋の中ごろは仲秋。秋の終わりは晩秋。「―立つ」。秋になる。「―の色」。秋のようす。秋げしき。「―の空」。天候の変わ

りやすい秋の空もよう。男女の愛情の変わりやすいたとえ。「一七草」秋に咲く代表的な七つの草。「一」の日は「薄」とし「秋の日は短くて暮れやすい」

あき【安芸】旧国名。芸州。広島県の名。芸州の西部地方。

あきかせ【秋風】①秋に吹く立つ②秋の風が吹き始める。③男女の仲が冷却し始める。

あきす【空巢】①鳥のいないすねらいの略。②あきすねらいの略。③あきすねらいの略。④あきすねらいの略。⑤あきすねらいの略。⑥あきすねらいの略。⑦あきすねらいの略。⑧あきすねらいの略。⑨あきすねらいの略。⑩あきすねらいの略。⑪あきすねらいの略。⑫あきすねらいの略。⑬あきすねらいの略。⑭あきすねらいの略。⑮あきすねらいの略。⑯あきすねらいの略。⑰あきすねらいの略。⑱あきすねらいの略。⑲あきすねらいの略。⑳あきすねらいの略。㉑あきすねらいの略。㉒あきすねらいの略。㉓あきすねらいの略。㉔あきすねらいの略。㉕あきすねらいの略。㉖あきすねらいの略。㉗あきすねらいの略。㉘あきすねらいの略。㉙あきすねらいの略。㉚あきすねらいの略。㉛あきすねらいの略。㉜あきすねらいの略。㉝あきすねらいの略。㉞あきすねらいの略。㉟あきすねらいの略。㊱あきすねらいの略。㊲あきすねらいの略。㊳あきすねらいの略。㊴あきすねらいの略。㊵あきすねらいの略。㊶あきすねらいの略。㊷あきすねらいの略。㊸あきすねらいの略。㊹あきすねらいの略。㊺あきすねらいの略。㊻あきすねらいの略。㊼あきすねらいの略。㊽あきすねらいの略。㊾あきすねらいの略。㊿あきすねらいの略。

あきたいぬ【秋田犬】日本犬。秋田県原産で、大型・強健。狩猟犬・闘犬用。

あきたりない【飽き足りない】十分に満足しきれないものたりない。

あきち【空地】建物その他に土地。

あきつ【秋津・蜻蛉】①①とんぼの古名。②秋津島。の略。秋津島は日本のこと。

あきつしま【秋津島】日本の古称。あきつに。あきつしまね。

あきない【商い】①物の売り。②売上げ。

あきめくら【明き言】①目あいて物を見えないこと。またその人。②無学で文字の読めない人。③文盲。

あきや【空家】人が住んでいない家。

あきらか【明らか】①明る。②はっきりしていること。明瞭。明確。

あきらめる【諦める】①思いやになる。②「単調な仕事に」。③「十分に満足する」。④「食べ」。⑤「アキレスけん」。⑥「一」。⑦「健」。

あきれる【呆れる】①あいかとの上の後背部にある強い肌。②キリンア神話の英雄アキレスからきた名。

あきれ【呆れる】①あいかとの上の後背部にある強い肌。②キリンア神話の英雄アキレスからきた名。

あく【灰汁】①灰のうわすみ。②食品・食物などのふくむしじみ。③人物や文章などのどぎつい感じ。「一」の強い人。

あく【悪】①「悪」。②「悪」。③「悪」。④「悪」。⑤「悪」。⑥「悪」。⑦「悪」。⑧「悪」。⑨「悪」。⑩「悪」。⑪「悪」。⑫「悪」。⑬「悪」。⑭「悪」。⑮「悪」。⑯「悪」。⑰「悪」。⑱「悪」。⑲「悪」。⑳「悪」。㉑「悪」。㉒「悪」。㉓「悪」。㉔「悪」。㉕「悪」。㉖「悪」。㉗「悪」。㉘「悪」。㉙「悪」。㉚「悪」。㉛「悪」。㉜「悪」。㉝「悪」。㉞「悪」。㉟「悪」。㊱「悪」。㊲「悪」。㊳「悪」。㊴「悪」。㊵「悪」。㊶「悪」。㊷「悪」。㊸「悪」。㊹「悪」。㊺「悪」。㊻「悪」。㊼「悪」。㊽「悪」。㊾「悪」。㊿「悪」。

あく【握】①「握」。②「握」。③「握」。④「握」。⑤「握」。⑥「握」。⑦「握」。⑧「握」。⑨「握」。⑩「握」。⑪「握」。⑫「握」。⑬「握」。⑭「握」。⑮「握」。⑯「握」。⑰「握」。⑱「握」。⑲「握」。⑳「握」。㉑「握」。㉒「握」。㉓「握」。㉔「握」。㉕「握」。㉖「握」。㉗「握」。㉘「握」。㉙「握」。㉚「握」。㉛「握」。㉜「握」。㉝「握」。㉞「握」。㉟「握」。㊱「握」。㊲「握」。㊳「握」。㊴「握」。㊵「握」。㊶「握」。㊷「握」。㊸「握」。㊹「握」。㊺「握」。㊻「握」。㊼「握」。㊽「握」。㊾「握」。㊿「握」。

あく【空く】①「空く」。②「空く」。③「空く」。④「空く」。⑤「空く」。⑥「空く」。⑦「空く」。⑧「空く」。⑨「空く」。⑩「空く」。⑪「空く」。⑫「空く」。⑬「空く」。⑭「空く」。⑮「空く」。⑯「空く」。⑰「空く」。⑱「空く」。⑲「空く」。⑳「空く」。㉑「空く」。㉒「空く」。㉓「空く」。㉔「空く」。㉕「空く」。㉖「空く」。㉗「空く」。㉘「空く」。㉙「空く」。㉚「空く」。㉛「空く」。㉜「空く」。㉝「空く」。㉞「空く」。㉟「空く」。㊱「空く」。㊲「空く」。㊳「空く」。㊴「空く」。㊵「空く」。㊶「空く」。㊷「空く」。㊸「空く」。㊹「空く」。㊺「空く」。㊻「空く」。㊼「空く」。㊽「空く」。㊾「空く」。㊿「空く」。

あくアラング【圧搾空気を背負い、それで呼吸しながら水中にの付属品を身につける】。

あくい【悪意】①他人に対し心。よくない考え。②悪い意味。③「一」に解釈する。④善意。

あくいんあつか【悪因悪果】悪い行為には必ず悪いむくいがあること。①善因善果。

あくうん【悪運】①悪いめぐり。②悪いことをしながら運が強いこと。

あくえき【悪疫】悪疫流行。チフスなど。

あくぎ【悪戯】いたずら。わるふざけ。

あくぎよう【悪行】人徳にたおこない。「一」をかされる。①善行。

あくさい【悪妻】夫婦のためにならない。

あくしつ【悪質】①品質がわるい。②「一」が悪いこと。悪性。「一」ないたすら。

あくしゅ【握手】①手をにぎる。②「一」が悪いこと。悪性。「一」ないたすら。

あくしゅう【悪習】悪い習慣。「一」にそまる。

あくじゅんかん【悪循環】つぎつぎに悪いことがひき起こされて、とめどもないこと。

あくじょ【悪女】①心のよくみにくい女。②「一」の深情け。

あくしやう【悪性】①性質よくないこと。「一」女。②「一」のよくないこと。

あくせい【悪声】①悪い声。②「一」の評判。「一」が立つ。③「一」の悪い評判。「一」が立つ。④「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑤「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑥「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑦「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑧「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑨「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑩「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑪「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑫「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑬「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑭「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑮「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑯「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑰「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑱「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑲「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑳「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉑「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉒「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉓「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉔「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉕「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉖「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉗「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉘「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉙「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉚「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉛「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉜「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉝「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉞「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉟「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊱「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊲「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊳「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊴「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊵「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊶「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊷「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊸「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊹「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊺「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊻「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊼「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊽「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊾「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊿「一」の悪い評判。「一」が立つ。

あくせい【悪性】①「一」の評判。「一」が立つ。②「一」の悪い評判。「一」が立つ。③「一」の悪い評判。「一」が立つ。④「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑤「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑥「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑦「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑧「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑨「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑩「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑪「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑫「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑬「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑭「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑮「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑯「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑰「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑱「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑲「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑳「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉑「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉒「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉓「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉔「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉕「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉖「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉗「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉘「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉙「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉚「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉛「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉜「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉝「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉞「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉟「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊱「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊲「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊳「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊴「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊵「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊶「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊷「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊸「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊹「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊺「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊻「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊼「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊽「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊾「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊿「一」の悪い評判。「一」が立つ。

あくせい【悪税】不当に取り立てる高い税金。

あくせく【悪醒】①「一」の悪い評判。「一」が立つ。②「一」の悪い評判。「一」が立つ。③「一」の悪い評判。「一」が立つ。④「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑤「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑥「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑦「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑧「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑨「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑩「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑪「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑫「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑬「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑭「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑮「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑯「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑰「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑱「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑲「一」の悪い評判。「一」が立つ。⑳「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉑「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉒「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉓「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉔「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉕「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉖「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉗「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉘「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉙「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉚「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉛「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉜「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉝「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉞「一」の悪い評判。「一」が立つ。㉟「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊱「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊲「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊳「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊴「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊵「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊶「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊷「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊸「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊹「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊺「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊻「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊼「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊽「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊾「一」の悪い評判。「一」が立つ。㊿「一」の悪い評判。「一」が立つ。

あくせさりー【装身具、イヤリング・ブローチ・ネックレスなど。②ちよつとした飾り】。

あくセル【自動車の、足でふんで速度を調節する器具】。

あくせん【悪銭】不正な手段で得たかねはむだに使って、すくなくなくなってしまふ。

あくせんくとう【悪戦苦闘】①非常に苦しい戦い。②「一」通りでない努力。

あくセント【強調】①強調。②「一」のなかで、とくに高く、または強く発音すること。③言葉の調子。④美術・服飾などで、変化をつけるために強調すること。「一」をつける】。

あくたがわしよう【芥川賞】昭和十年、文芸春秋社が芥川龍之介を記念して設けた新人文学賞。

あくだま【悪玉】①悪い魂。②「一」善玉。③「一」悪玉の悪役。④「一」悪玉の悪役。⑤「一」悪玉の悪役。⑥「一」悪玉の悪役。⑦「一」悪玉の悪役。⑧「一」悪玉の悪役。⑨「一」悪玉の悪役。⑩「一」悪玉の悪役。⑪「一」悪玉の悪役。⑫「一」悪玉の悪役。⑬「一」悪玉の悪役。⑭「一」悪玉の悪役。⑮「一」悪玉の悪役。⑯「一」悪玉の悪役。⑰「一」悪玉の悪役。⑱「一」悪玉の悪役。⑲「一」悪玉の悪役。⑳「一」悪玉の悪役。㉑「一」悪玉の悪役。㉒「一」悪玉の悪役。㉓「一」悪玉の悪役。㉔「一」悪玉の悪役。㉕「一」悪玉の悪役。㉖「一」悪玉の悪役。㉗「一」悪玉の悪役。㉘「一」悪玉の悪役。㉙「一」悪玉の悪役。㉚「一」悪玉の悪役。㉛「一」悪玉の悪役。㉜「一」悪玉の悪役。㉝「一」悪玉の悪役。㉞「一」悪玉の悪役。㉟「一」悪玉の悪役。㊱「一」悪玉の悪役。㊲「一」悪玉の悪役。㊳「一」悪玉の悪役。㊴「一」悪玉の悪役。㊵「一」悪玉の悪役。㊶「一」悪玉の悪役。㊷「一」悪玉の悪役。㊸「一」悪玉の悪役。㊹「一」悪玉の悪役。㊺「一」悪玉の悪役。㊻「一」悪玉の悪役。㊼「一」悪玉の悪役。㊽「一」悪玉の悪役。㊾「一」悪玉の悪役。㊿「一」悪玉の悪役。

あくたれ【悪たれ】①ひどい。②「一」小僧。③「一」小僧。④「一」小僧。⑤「一」小僧。⑥「一」小僧。⑦「一」小僧。⑧「一」小僧。⑨「一」小僧。⑩「一」小僧。⑪「一」小僧。⑫「一」小僧。⑬「一」小僧。⑭「一」小僧。⑮「一」小僧。⑯「一」小僧。⑰「一」小僧。⑱「一」小僧。⑲「一」小僧。⑳「一」小僧。㉑「一」小僧。㉒「一」小僧。㉓「一」小僧。㉔「一」小僧。㉕「一」小僧。㉖「一」小僧。㉗「一」小僧。㉘「一」小僧。㉙「一」小僧。㉚「一」小僧。㉛「一」小僧。㉜「一」小僧。㉝「一」小僧。㉞「一」小僧。㉟「一」小僧。㊱「一」小僧。㊲「一」小僧。㊳「一」小僧。㊴「一」小僧。㊵「一」小僧。㊶「一」小僧。㊷「一」小僧。㊸「一」小僧。㊹「一」小僧。㊺「一」小僧。㊻「一」小僧。㊼「一」小僧。㊽「一」小僧。㊾「一」小僧。㊿「一」小僧。

あくち【悪血】病毒をふくんだ、よごれた血。

アクチ ①能動的。②共産党の活動家。

あくどい ①ひどく、しつこい。②やり方が度をこして悪い。

あくとう 【悪党】 ①悪い紳士の者たち。②悪い奴。悪漢。

あくどく 【悪徳】 人道にはすこない。「商人」

あくにち 【悪日】 ①日ごろの誠意など。②運の悪い日。吉日。

あくにん 【悪人】 わるもの。悪人。

あくば 【悪罵】 口ぎたなくと。ひどいわる口。

あくび 【△欠△伸】 つかれたるとき、眠いときなどに自然に大きく口が開いて出る息。

あくひつ 【悪筆】 字がへたな文字。一連筆。

あくぶん 【悪文】 へたな文ににくい文章。一名文。

あくへい 【悪弊】 悪い習慣。

あくへき 【悪癖】 悪いくせ。

あくま 【悪魔】 ①人の心をまよわせ悪にさそう悪神。②極悪人。

あくまで 【飽くまで】 どこも。最後のどんづまりまで。

あくむ 【悪夢】 ①睡眠のわるろしい夢。②いやな夢。③夢としか思われないような、いやなことや恐ろしいこと。

あくめい 【悪名】 悪い評判。わざ。

あくやく 【悪役】 演劇・映画たき役。悪形。

あくよう 【悪用】 悪いことにと。一善用。

あぐら 【△胡△座】 脚を組み合すわること。

あくらつ 【悪辣】 ひどくたこと。あくどいこと。

あくりよう 【悪霊】 たたり死人のたましい。悪霊。

アグレマン 大・公使を派遣する前にあらかじめ相手国に求める承認。

アクロバット たそれが職業の人。

あけ 【△朱・△絳】 ①朱の色。②赤い色。

「一にそまる」③朱の色。絳の色。

あげ 【上げ】 ①あげること。②値物のゆき・たけをからだに合わせる。③短くぬいづめる。

あげ 【揚げ】 油であげたもの。

あげがた 【明け方】 夜の明前のほの暗いころ。夜明け。

あげく 【挙句】 ①通歌・俳句の終りの七・七音の句。②発句「一のはて」。

あけくれ 【明け暮れ】 ①朝日。②いつも。始終。

あげしお 【上げ潮】 満ちてお。さし潮。一引潮。

あげすけ 物事をつつみかくさな「一に事情を話す」。

あげぞこ 【上げ底】 見せよくするため、容器の底を高く上げて作ったもの。

あげだい 【揚げ代】 芸者を呼ぶ代金。玉代。

あげて 【挙げて】 こぞつて。べて。「全校を一応援する」。

あけのみようじよう 【明

けの明星 夜明け前に東方にかがやいてみえる金星。よいの明星。

あけび 【△木△通△通△草】 あけび科のつる性落葉低木。秋に楕円形の実が熟し紫にさける。実は食用。つるでかごを編む。

あけぼの 【△曙】 夜がほのぼころ。あけがた。黎明。

あげまき 【揚巻・△純△角】 ①左右に二つの輪をつくる子どもの髪型。②ひもの結び方の一つ。③まてがい貝の二枚貝。

あげまく 【揚げ幕】 芝居の出入口や、能舞台の鏡の間と鏡壁の間に設けた垂れ幕。

あげもの 【揚げ物】 油で揚げた品。総称。

あける 【明ける・空ける】 ①朝になる。②(年や月が)新しくなる。③すきま・あきをつくる。④あいたところをつくる。⑤一定期間がすぎると。⑥中のものを出して、からにする。⑦ふさぐ。⑧中のものを出して他に移す。⑨中にする。⑩用をなくする。⑪開始する。「芝居の幕を一一とじる」。

あがる 【上げる・揚げる】 ①下から上のほうへ移させる。

一下げるとおろす。②神仏にそなえる御香を一一。③人をはめる。人をおだて、もちあげる。④得る。「利益を一一」。⑤終える。すませる。⑥免する。⑦与える。⑧へりくだった言い方。⑨いたたてて、へりくだった意味を表わす。「申し一一」。⑩食べ物を油で煮る。「揚げてんぶらを一」。

あがる 【挙げる】 人の前でおこなう。「式を一一」。②敷えあげる。取り出しエウ。理由を一一。③出しつくす。「全力を一一」。④人を選んで推す。「候補を一一」。⑤得る。⑥悪いことをした者をつかまえる。「犯人を一一」。

あけわたす 【明け渡す】 建物・城などを立ちのいて人に手渡す。

あご 【△顎・△頤】 ①人や動物にある器官。「一が干上がる」生活が苦しくなる。②下あご。おとがい。「一を出す」ひどくつかれる。「一をはずす」大いに笑う。

あこがれる 【△憧れる・△懐れる】 理想とし、目ざすもの。心に心がひかれる。

あこやがい 【△阿古屋貝】 二枚貝の一種。暖かい海にすむ。貝がら・真珠をとる。真珠貝。

あさ【麻】①くわ科の一年生植物が咲く。茎の皮から繊維をとる。糸・織物などをつくる。②あさ糸。あさ布。

あさ【朝】夜が明けてからしばらくの間。①夕。宵。②あさ。あさ布。

あざ【痣】皮膚の表面にできる赤色または青色のまだら。

あさい【浅い】①底や奥までが浅い。「一海」②少ない。「一怪論がー」③色が薄い。「一緑色」④深い。

あさいち【朝市】魚・野菜なめ朝ひらく市。

あさおき【朝起き】①朝早く起きること。早起き。「一は三文の徳」②朝起きたときの機嫌。

あさがお【朝顔】①ひるがお植物。夏の朝、じょうご形の花を開く。②男便所の受け口。

あさがけ【朝駆け・朝駆け】①朝早く出かけること。②け。③早朝。敵に攻撃をしかけること。④夜討ち。

あさぎ【浅葱・浅黄】黄色がかった薄いあい色。

あさくさ【浅草】東京都台東区、浅草観音の門前町から発達

した盛り場。「一毒舌音、このあたりで取れはじめた、のり。*「一紙」すき返し紙の紙。朝めし。①夕げ

あさげ【朝食・朝餉】朝めし。①夕げ

あざける【嘲る】ばかにしものしる。

あさせ【浅瀬】川や海の水の浅い所。

あさぢ【浅茅】①たけの根のまばらにはえた、ちがや。「一が原」

あさづけ【浅漬】なまほし梅塩とこうじでつけたもの。べつたらづけ。

あさつてあすの次の日。明後日

あさで【浅手・浅傷】いさず。①深手

あざな【△字】①本名以外の別名。②あだ名。

あさなゆうな【朝な夕な】あさゆう。つねに。

あさね【朝寝】朝遅くまで寝朝寝ほう。

あさはか【浅はか】思慮が浅いこと。①浅慮

あさひ【朝日・旭】朝の太陽。またその光。旭日。あさぼらけ【朝ぼらけ】ほのぼのと夜の明けるところ。夜明け。あけぼの。

あさましい【浅ましい】①なさないほど見苦しい。②いやしい。③みすぼらしい。

あさまだき【朝まだき】まだ夜の明けきらないころ。未明。早曉。

あざみ【△薊】植物。秋に紅色の筒状の花を開く。

あざむく【欺く】①うそをいったり。②まどわす。

あざやか【鮮やか】①色や形などが美しくはつきりしている。②手ざわりよく見事である。

あさやけ【朝焼け】日の出直後の空が赤く染まること。雨に降ることが多い。①夕焼け

あさり【浅蜷】①近くの浅い海にすむ二枚貝。肉は食用。

あさる【△漁る】①魚や貝をとる。②さがし求める。「古本をー」

あざわらう【△嘲笑う】ばかにして笑う。せせら笑う。

あし【足・脚】①足くびから下や動物の股いから下の部分。②人間や動物の胴体の下にある部分。③さえるもの。④舟の水につかる部分。「舟のー」⑤歩くこと。「が速い」⑥進むこと。道のり。「遅くまでーをのぼす」⑦「お」をつけておかね。「おーがたりない」⑧足どり。「ーがつく」⑨逃げたもののゆくえがわかる。「お」を出す。「ーが出る」⑩おねを予定より多く使ったり。⑪なくなる。「水ーを洗う」⑫よくない仕事からはなれる。「ーを奪われる」⑬交通機関がとまって行き来がでなくなる。

あし【△芦・蘆・葦】科の多年生植物。水辺にはえ、秋に穂を出して葦むらさきの小さい花を開く。葦むらさきの材料。

あじ【味】①飲食物などが舌にふれて受ける感じ。「舌勞したのでーがでて来た」②自分でやってみて知った感じ。「苦勞したのでーがでて来た」③おもしる。あじわい。「ーのあることを言う」④「下」に「な」をつけて「気がきい」⑤「下」に「な」をつけて「水ーを占める」⑥一度うまくいったときの快感が忘れられない。

あじ【△鱈】あじ科の両産魚。列にうるこがある。食用。「アジテーション」の略。あおるこ。そそのかすこと。

あしがかり【足掛(か)り】①高い所にのぼるとき足をかけるもの。足場。②物事を始めるときの手がかり。つづる。

あしかけ【足掛け】①足をかけること。②年月を数えるとき、最初と最後のはんばもそれぞれ一年、あるいは一月と数える方法。

あしがため【足固め】①強くすること。足ならし。②物事の基礎をしっかりとすること。③柔道・レスリングのわざの一編。

あしからず【△悪しからず】「わるく思わないうでくださ」といふ。思わぬ。よろしく。

あしがら【足軽】昔、ふだんし、いくさのときには兵隊とな

別名「一びら」
アジアしゅう【亜細亜州】六大州の一つ。東半球の東北部をしめる世界最大の大陸。

あしあと【足跡】①歩いたあとの形。②逃げた人のゆくえ。「ーをくまう」

あしか【△海・驢】あしか科の動物。海に群れをなしてすむ。からだは暗褐色。①足はひれのような形をしている。脂肪・肉・皮ともに利用される。

あしげ【足×蹴】①足でけること。②ひどい仕打ち。

あじさい【△紫△陽△花】

ゆきのした科の落葉低木。夏、青色のたくさんの小花が球のよう

アシスタント 手助けをする者。助手。

あしだ【足×駄】道の悪いとぬの高い下駄。高下駄。

あしだい【足代】交通費。旅費。

アジタート 「感情をこめて」用語。

あしだまり【足×溜(ま)り】①しばらくとどまる場所。②足をかける所。足がかり。

あしつき【足つき】①歩き足がっこう。②足の付いた道。

あしてまとい【足手×纏い】物事をするのにじやまにならないこと。また、じやまになる人。あしてまとい。

アジト 「アジテイティング・ポイント」の時。労働争闘などを指導したり、左翼運動を扇動したりする秘密の本拠。

あしどり【足取り】①歩きつき。②歩いたみちすじ。怪路。③「犯人の—をつかむ」。④相場の高低。*すもうのわざの一種は「足取り」と言う。

あしなみ【足並(み)】①多の人がいっしょに歩くときの、足のそろいぐあい。歩調。—をそろえる。②多くの人が物事をするときの気持のそろい方。

あしならし【足慣(ら)し】足×馴(ら)し。①足を強く歩く練習。足がため。②下準備。③とき高い所へのぼるため、丸太やパイプを組んで作ったもの。④よりどころ。⑤選挙運動の—をきずく。⑥交通の便。「学校への—がよい」。⑦足もとのぐあい。「雪どけで—が悪い」。

あしはら【×葦原】①あしはらの原。②日本の古名。「—の瑞穂の國」*あしはらの—とよむ。

あしび【△馬×醉△木】科の常緑低木。春にすずらん形の白い花を開く。葉は有毒。あせび。花を開く。

あしぶみ【足踏(み)】①同じいて足をお互にかわる踏む動作。②物事が同じところにとど

まって進行しないこと。「交渉は一状態だ」。

アジ・プロ アジテーションとプロパガンダの意。扇動と宣伝。

あしへん【足偏】漢字の偏の「施」などのまの部分。

あしまめ【足まめ】うがら十に歩きまわること。

あしもと【足元・足下・足許】①足の運び。歩き方。「年—をとると—があぶない」。②手近な所。「—を固める」。③立場。状況。「—を見る」。弱みにつけこむ。

あしらう ①もてなす。「客を—」。②いいかげんにあつかう。「鼻で—」。③とどろかせる。「オーバ—のえりに造花を—」。

アジる 扇動する。おだてる。↓

あじろ【網代】①冬、水中に木や竹を組んで、魚をとる仕掛け。②ひのき、竹を編んだもの。垣。びようぶ。天井・牛車などに用いる。

あじわう【味わう】①味をみる。②物事の意味やおもしろみをよく考える。味味する。鑑賞する。「名曲を—」。③体験する。「苦しみを—」。④おいしさをたのし

む。「上等の料理を—」。

あす【明日】きょうの次の日。あした。みょうにち。翌日。「—あさまで—」。

あすかじだい【飛鳥時代】推古天皇(五九二)から文武天皇(七一〇)にいたる百余年間。多く奈良県飛鳥地方に都を置いたためこの名がある。仏教がさかんで文化が栄えた。

あずかる【預かる】①預ま管する。「貴重品を—」。②引き受けてせわをする。「こどもを—」。③物事の始末をまかせられる。「けんかを—」。④おさえ、とめておく。保留する。「採決を—」。

あずかる【△与る】①物事に関係する。「相談に—」。②こころむ。受ける。「ご配慮に—」。

あずき【小豆】まめ科の一年生植物。夏、黄色いちゅう形の花を開き、細長いさやの中にえんじ色の種(豆)ができる。あん・しるこなどにして食用。

あずける【預ける】①保管を頼む。②仲敷・処理をまかせ

あずさ【×梓】①植物のあかめがしわ。よくそ

みねばり・きささげの古名。②版木。*「—に上す」出版する。*上梓。

あずさゆみ【×梓弓】①あずさの木で作った弓。②はる(春・遷)。「—(引)入」。③引くなどにかかるまくらことば。

アスター きく科の一年生植物。の形。

あずちもやまじだい【安土桃山時代】一五六八—一五八八年まで三十二年間の織田信長・豊臣秀吉が政権をとっていた時代。信長は安土城、秀吉は桃山城にいたのでこの名がある。美術・文化史上に重要な時期。

アストリンゼント 皮膚に塗る。整える。酸性の化粧水。

あすなる【△翌×檜・△羅△漢×柏】ひのき科の常緑高木。深山に自生し、高さ約三〇m。葉はひのきに似て大きい。建材などに使われ、ひば。*「あす(明日)」は「ひのき」にならうの意から「あすなるう」とも言う。

アスパラガス ゆり科の多年生植物。若い茎は食用。葉を観賞する種類もある。

アスピリン 熱をさましたり、痛みをとめたりす

る白い結晶の素。重油から石油を精製したのこりかす。また天然にも産する。黒い油性の光沢があり、道路の舗装や電線のおおいなどに使用。

あずま【△東・×吾妻】①関東地方。②昔、京都から江戸・鎌倉をさして言った言葉。

あずまうた【△東歌】万葉集・古今集に収められている、東国地方の人の素朴な和歌。

あずまおとこ【△東男】①関東の男。②男らしい男。「一に京おんな」

あずまや【△四×阿・△東屋】柱だけで壁のない屋根を四方へふきおろした小屋。庭園などに設ける。休息・展望用。亭。

あせ【汗】体温調節のため皮膚の汗腺から出る水分。

あせ【△畔・×畦】①田と田とを盛りあげて境としたもの。②しきい・かもしの、みぞとみぞの間にあるしきり。

あせい【×阿世】世におもねること。「曲学」

あせいそうけん【亜成層】

アセ 成層圏の下方で七〜八千フィートの高空。★重しは、！あ(重)(1)

あせくら【△校倉】昔の建物の一つ。三角形または丸や四角形などの長い材木を互い違いに組みあけて造る。奈良の正倉院は「あせくらづくり」で有名。

あせしらず【汗知らず】汗を吸いとらせるのに使わずい粉・亜鉛華粉・てんかふん・シンパロールなど。

あせだく【汗だく】汗でびりぬれているさま。

アセチレン カーバイドに水がある。火が付きやすく、強い光を出して燃える。灯火工業用。

アセテート 酢酸セルロースを原料とした合成繊維。軽くて、しわになりにくい。

あせばむ【汗ばむ】汗が出じつとりと、しめりけを帯びる。

あせも【汗×疹・汗×疣】汗のために皮膚にできる小さな発疹。

あせる【焦る】急いで気がたらいらす。気をもむ。いらだつ。はやる。

あせる【×褪せる】①色が薄さめる。②弱まり衰える。

あぜん【×亞然】あきれて物よす。あきれかえるよす。アソシエーション 連合。協

あそばす【遊ばす】①遊ばす。②休ませる。③「する」の尊敬語。される。なされる。④動詞または名詞の下につけて、敬意を表わす。

あそぶ【遊ぶ】①すき勝手なしむ。②働かずい。なにもせず時をすごす。③働く。④旅行する。「欧州に」。⑤遊興する。⑥遠隔地や外国に行つて遊ぶ。遊学する。⑦場所や道具などが使われずに放置される。

あそん【△朝臣】①昔、天皇かえた臣。②八色の姓階の第二位。のちには四位以上の人につけた敬称。

あだ【×仇】①うらみをもつて「一をうつ」。②返すするもの。悪さ。「思を」で返す。「一男」③はかないようす。④「一男男」⑤はかないようす。⑥「一やおろそかにしない」

あだ【△徒】①むだ。「一花は」。②うわつたようす。

あたい【価・値】①ねだん。値。ねうち。③数字で、かすの大きさ。

あたいする【値する】①ねが他のあるものに相当する。②あることをするだけのねうちがある。

あたえる【与える】①やる。②「菓子を一」。「表彰状を一」。③「あてがう」。「ヒントを一」。④こむらせる。「損害を一」。

あたかも【×恰も】①まるうど。「一絵のようだ」。②「うどその時」。「時」行業のシンズン。

あたざくら【△徒校】①散りば。②うわき女。

アダジオ 「ゆるやかな速度で演奏せよ」の音楽用語。

あたたかい【暖かい・温かい】①暑くもなく寒くもな。②「か」が「く」よりよい温度。③「か」が「く」よりよい温度。「ふところか」。④なまけ。「一心」

あたためる【暖める・温める】①からだをあたたかにする。②冷えたものを、ほどよい温度にする。「スーパを」。③つきあつて心をやわら

げる。「旧交を一」。④大切にすること。

アタクク ①敵を攻撃すること。②登山で険しい岩場や山にいどむ。

あだな【×渾名・×仇名】本名のほかにその人の特徴をとらえて他人がつけた名。愛称。ニックネーム。

あだなさけ【×仇情(け)】むなし情愛。

あだばな【△徒花】咲いてもない花。むだ花。

あたふた「あわてているようす」。

あたま【頭】①人間や動物の首の骨。②「一が悪い」④ものの上のほう。てっぺん。「くぎの上」。⑤はじめ。「一から反対する」。⑥人数。「乗客の一をそろえる」。

あたまうち【頭打ち】①相頂点に到達したこと。②物事が限界に達して動きのとれないこと。

あたまきん【頭金】①分割払約の時、最初に渡す金。

あたまごなし【頭ごなし】